

金城学院中期計画

(2015年度～2020年度)

2014年11月17日

学校法人 金城学院

目 次

(頁)

中期計画の策定に当って	……	1
I キリスト教主義による全人教育の強化	……	1
1. 大学	……	1
2. 中学校・高等学校	……	2
3. 幼稚園	……	2
4. 法人（学院全体）	……	3
II 教育・研究の推進と学習支援	……	3
1. 大学	……	3
2. 中学校・高等学校	……	5
3. 幼稚園	……	6
4. 法人（学院全体）	……	6
III 健全経営の維持	……	7
1. 組織力の向上	……	7
2. 財務体質の強化	……	7
3. 広報の充実	……	7
IV 地域社会との共生	……	8
1. 大学	……	8
2. 中学校・高等学校	……	8
3. 幼稚園	……	9
4. 法人（学院全体）	……	9
V KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進	……	9
VI 金城学院創立 130 周年・大学設立 70 周年記念事業の立案と実施	……	10

中期計画の策定に当って

金城学院は、1889年（明治22年）の創立以来、長きにわたってキリスト教主義に基づく女性教育に心血を注いできた。「主を畏れることは知恵の初め（箴言1：7）」を学院モットーに掲げ、現在は、建学の精神に基づく学院全体の教育の柱「福音主義キリスト教による女子教育」・「全人的な一貫教育」・「国際理解の教育」に従って、大学では「強く、優しく。」を、中高では「自立・自律・連帯」を、幼稚園では「愛され 育ち合う」を教育スローガンとしている。

今、教育機関を取り巻く環境は、一段と厳しくなっている。併せて、社会の変化も激しい。少子化は今後一段と進み、18才人口を例にとると、現在の120万人が10年後には100万人を割り込み、2031年には87万人となる見込みである。また、交通環境も一層の整備が図られることに伴い、通学圏はますます拡大することが予想される。

こうした社会変化に対応し、本学院の伝統に基づく教育を今後も継続していくためには、将来をしっかりと展望した上で、教育・研究における質的向上の不断努力が必要である。

本学院は、創立120周年を機に、建学の精神の深化を基本方針とする「金城学院中期計画（2009年度～2014年度）」を策定して教育事業を進めてきた。

ついては、今後もこの地域で常に選ばれ、高い評価を受け続けるために、次期6年間の事業の新たな指針・目標として、「金城学院中期計画（2015年度～2020年度）」を策定し、学院創立126年目の2015年度より、この中期計画に基づき事業を展開していく。

I キリスト教主義による全人教育の強化

1. 大学

日本の教育史や女性史において、キリスト教主義女子教育が、人格主義による女性観を教え培ってきたことは紛れも無い事実である。本学は金城学院創立125年を経てその伝統を受け継ぎ、教育方針を堅持してきた大学である。それ故に、本学では知識を学び資格を取得することだけを目的にするのではなく、「全人教育」つまり人格を育てることを目指しているのである。

本学は今後、まず教職員が改めてこの歴史とその教育の理念を確認する事が必要であろう。本学がキリスト教主義に立つ教育機関であることを、様々な分野から外部に向けて発信していかなければならない。そのためには、教職員一人一人の建学の精神の理解とキリスト教教育活動への理解が必要不可欠である。以上のことから、2015年度からの6年間においては、学生を対象にするのみならず、教職員全体の意識高揚のために、次の施策によって全学的意識改革を目指して行きたい。

施 策
① 学生と教職員への建学の精神の徹底 ② キリスト教教育の再構築 ③ 学内礼拝の励行と教会出席の推奨 ④ エラ・ヒューストン記念礼拝堂の活用 ⑤ 地域教会との連携強化 ⑥ 地域住民へのキリスト教講座の充実

2. 中学校・高等学校

中学～高校の6年間の校内礼拝を通して、聖書の言葉が身近にあり自然に受け入れられる環境をより一層整えるとともに、特別なキリスト教行事においては、生徒たちの企画を可能な限り採り入れ、自分たちの礼拝という意識の高揚を図る。また、福音派の諸教会への参加・出席を、様々な機会を通して奨励する。

キリスト教主義に基づく教育の実施を推進する上では、全教員がキリスト教主義教育の重要性を認識し、積極的にキリスト教教育に関わる体制を目指す。

道徳の教科化に対しては、道徳教育で育成しようとしている力が、キリスト教の世界観・人生観に基づく教育、すなわち聖書に基づく宗教教育で確かに代替できることを、キリスト教学校教育同盟との連携により引き続き明示し要望していく。

ボランティア活動については、神と人への奉仕精神を養う良い機会であることから、情報を積極的に生徒に提供して参加をより一層推奨し、活動を活発化させていく。

2015年度からの6年間では、以上の考え方にに基づき、次の施策を中心にキリスト教主義による全人教育の取り組みを推し進める。

施 策
① 生徒の企画・参加型礼拝の実施 ② 近隣教会への出席の奨励 ③ キリスト教教育実施体制の再構築 ④ 教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励 ⑤ 宗教主事の果たすべき役割の見直し ⑥ キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応 ⑦ 地域を中心としたボランティア活動への参加の奨励

3. 幼稚園

幼児期という人生で最も柔軟に物事を理解し吸収する大切な時期に、キリスト教教育に出会えたことを神の恵みとして感謝できる子どもを育むことが本園にとっての願いである。また本園は、幼児にとってもっとも大きな影響を与えるものは家庭教育にあることを踏まえ、園児はもちろんのことその保護者に対しても、キリスト教教育を実践していく大きな責任を神から託されている。

2015年度からの6年間では、教育スローガン「愛され 育ち合う（生活と遊びを通

して行われる教育活動により、親、保育者、友達の愛情を身近に感じ、それらを与えてくださる神様の大きな愛に幼児が気付いていくように心身を成長させてゆく。)のもと、次の4点の施策を掲げ、園児同士の育ちに留まらず、関わっていく保護者、保育者も育ち合えるような保育を目指し、キリスト教教育による全人教育を推し進めていく。

施 策
① 建学の精神に基づくキリスト教教育の意識強化と教育スローガンの実践
② 礼拝と祈りと奉仕の実践
③ 近隣教会への出席の推奨
④ 礼拝を通し「主の祈り、聖句、聖話、讃美歌」を幼児の心に刻むこと

4. 法人（学院全体）

建学の精神からして「キリスト教主義による全人教育」は、金城学院にとって不変のテーマである。金城学院の歴史は、キリスト教主義による全人教育の歴史であり、そこにこそ金城学院の伝統が息づいている。先の中期計画（2009年度～2014年度）では、「金城学院建学の精神のリバイバル」を基本方針に据え、原点に立ち返ってこのテーマに取り組んだ。

ついては、2015年度からの6年間においても、次の4点のテーマを法人の重点課題として掲げ、学院全体でキリスト教主義による全人教育に取り組む。

施 策
① キリスト教関係諸行事の充実と地域教会との関係強化（礼拝の魅力化と学生・生徒・園児に対する伝道の強化）
② 教会関係施設の地域への開放
③ 歴史館の設置（金城学院アーカイブズの整理集約・保管・展示）
④ キリスト教音楽活動の活性化

II 教育・研究の推進と学習支援

1. 大学

(1) 教育・研究上の改革

社会から期待される大学として、本学が今後もさらに質的転換をしていく上では、生涯学び続け主体的に考える力を持ったグローバルな人材を育成すること、地域課題の解決の中核となる大学になること、などが重要である。本学は、この認識に立ち、今後も高等教育機関としての教育及び研究上の改革を更に推し進める。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 初年次教育の充実 ② 社会から求められる教養教育の実現 ③ 国際理解教育の更なる推進 ④ 高度職業人の育成 ⑤ 教育課程の体系化 ⑥ 実質的な学修時間の確保 ⑦ 学生の主体的・能動的学びの実現 ⑧ ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づく教育の実現 ⑨ 国家試験合格率の向上 ⑩ 研究成果の可視化と教育への還元 ⑪ 科学研究費などの申請件数、採択件数の拡大

(2) 学生支援の充実

本学は、学生一人一人がより充実した学生生活を送ることができるよう支援するとともに、社会で活躍できる自立した人材の育成を今後も目指す。そのため、入学から卒業に至るまで、全学的に一貫したサポートを行っていくとともに、学生支援に必要なデータベースの整備や有機的な支援体制の強化を更に推し進める。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① アドバイザー制の充実 ② キャリア開発・就職支援の推進 ③ 学生マナーの向上 ④ クラブ・サークル活動の活性化 ⑤ 学生相談体制の充実 ⑥ 学生ボランティア活動の促進 ⑦ 「K-カルテ」・「K-PORT」による学生支援の充実 ⑧ 防災体制の整備

(3) 教学マネジメント体制の強化

教育活動や学生支援を推し進める中で、その改革と改善に取り組むため、大学の教学マネジメント体制を強化・拡充する。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 共通教育運営体制の充実 ② FD活動及びSD活動の推進 ③ 自己点検・自己評価制度の更なる拡充

2. 中学校・高等学校

(1) 教育力の向上（探究力育成）

本校は「神から与えられた賜物」を発見し、それを活かす生き方を自覚的に選択できる女性の育成を目指した教育を更に推進する。そのために、本校のオリジナル科目“Dignity”を柱として教科教育の充実を図り、探究力育成型の教育活動を充実させる。

また、金城学院大学との間で現在行っている教育連携事業を、より教育効果が上がる内容になるよう、大学との話し合いを継続して改善に繋げる。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① “Dignity”の充実
② 英語と社会の合科“World Studies”の充実
③ GDM(英語による英語教授法)を使った授業改善
④ ESD(持続可能な発展のための教育)導入の検討
⑤ 多様な語学研修プログラムの推進
⑥ 中高大教育連携の更なる推進

(2) 生徒支援の充実

本校は、生徒一人一人がより充実した学校生活を送ることができるよう支援するとともに、生徒自身の自己実現に向けた進路選択の力を向上させる。

また、KMP21により今後も順次校舎の建替えが進められるため、中高が相互に協力し合い、良好な教育環境をその間も維持できるよう努める。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 「自立・自律・連帯」精神の育成と高揚
② 中高連携した進路指導体制の整備・充実
③ 生徒相談に関するケースカンファレンスの定期的な実施
④ 校舎建替え期間中の中高相互協力による良好な教育環境の確保

(3) 教学マネジメント体制の強化

校内設置の研究部における研究活動を通じ、入試の改善や授業内容の改善を図る。また、PDCA サイクルの考え方にに基づき、研修制度や自己点検・評価制度を新たに導入して実施する。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 入試研究部における入試改善の研究
② カリキュラム研究部における探究力育成の研究
③ 教師力向上のための研修会の実施
④ 教育評価制度の導入と施行

3. 幼稚園

(1) 魅力ある教育の推進

本園は、教育スローガン「愛され 育ち合う」の実現に向け、保護者としっかり連携して教育を進める。特に縦割り（異年齢）保育では、園児がその子らしく成長することを大切にして教育を行う。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 自由活動とリンクした学年別活動・クラス活動の充実
② 縦割り(異年齢)保育の充実
③ 保護者と教員との連携強化
④ 保護者参加行事の見直し

(2) 環境の整備と子育て支援

幼児の自発的な遊びを促すために、自然環境をはじめ、園庭・園舎や遊具・素材（水や土）など幼児を取り巻く環境を、幼児の視点から整備する。子育て支援においては、2013年度から開始した預かり保育の拡充を図るとともに、未就園児保育「プレ幼稚園」の拡充を図る。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 魅力ある園庭作りと、主体的な遊びを促す環境の整備
② 幼稚園周辺の豊かな自然の有効利用、保全、美化
③ 預かり保育の拡充
④ 未就園児保育「プレ幼稚園」の拡充

(3) 中高大との交流と教員の連携

学生、生徒、園児の交流や教員相互の交流・連携を強めることは、金城学院が建学の精神に基づくキリスト教教育を更に発展させる上で重要である。本園は、その認識に立ち、中高大との連携を進める中で、その働きを十分に果たしていく。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 学生、生徒、園児の交流
② 教員相互の交流・連携

4. 法人（学院全体）

本学院では、金城学院緊急奨学金をはじめ給付型の奨学金を中心に 17 種の独自の奨学金制度を用意している。しかし、経済的に困窮している学生・生徒・園児及びその父母等にとっては、教育費は経済的に重要かつ深刻な問題である。については、本学院の各校・園に通うすべての学生・生徒・園児が、経済的にも安心して教育を受けられるよう、現行奨学金制度の改善を進める。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 修学及び成長意欲の喚起を促す奨学金制度の見直し

Ⅲ 健全経営の維持

1. 組織力の向上

本計画期間中は、18歳人口減少の踊り場となるが、学院を取り巻く経営環境は、依然として生き残りを賭けた激しい競争が続くと予測される。この難局を乗り越え、更には2021年度以降の減少期に備える健全経営体制を確立するためには、組織力の向上が重要な課題である。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 人事評価制度の見直し
② 管理職の育成
③ 内部統制が有効に機能したガバナンスの確立
④ 業務プロセスの見直しによる業務の効率化
⑤ 危機管理体制の強化
⑥ 教職員の意識向上によるリスクマネジメントの強化
⑦ 内部監査制度の定着

2. 財務体質の強化

健全経営の基盤となる強固な財務体質を確立するためには、現在取り組んでいるすべての事業について、内部環境及び外部環境の分析により、再評価を行いその結果に基づき選択と集中を推進し、資産の有効活用を図る必要がある。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 各事業の費用対効果の検証
② よりの確な意思決定ができる予算制度への改善
③ 財務指標に裏付けられた健全経営の維持
④ 財源多様化による収入基盤の強化

3. 広報の充実

健全経営を維持するためには、教育・研究活動を通じて構築されたブランド力を、タイムリーな広報活動によりアピールし、競争力をより向上させる必要がある。また、情報公開をさらに積極的に行い、公正・透明な経営を維持する必要がある。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 戦略的広報活動の推進 ② 積極的な情報公開の推進

IV 地域社会との共生

1. 大学

本学の教育・研究活動は、地域社会からの支持・支援なしには達せられず、また本学の存在が地域のあり方におよぼす影響も大きい。その認識に立ち、本学は地域のなかで、地域とともに、地域のための教育・研究活動を今後とも推し進め、地域社会に今まさに生起しつつある困難にも積極的な姿勢で臨み、地域社会との共生を果たしていく。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 環境共生モデル地区の維持と活用 ② 「大学コンソーシアムせと」への積極的参加 ③ KIDS (Kinjo Infant Development Support) センター の設置と運営 ④ 企業との積極的な連携 ⑤ 生涯教育、社会人教育、リカレント教育の充実

2. 中学校・高等学校

(1) キャンパスの地域への開放

名古屋市や地元の教会などに、本校の施設や設備をもっと有効に活用していただけるよう、中高企画広報室を中心に施設・設備の活用機会の提供について再検討する。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 東区主催「文化のみち」などでの施設・設備の開放と活用機会の提供 ② 施設・設備の利用法の見直し

(2) 地域奉仕活動への参画

地域奉仕活動への積極的な参画を推奨し、生徒および教職員が様々な地域活動に参加しやすい環境を整える。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 東区主催「文化のみち」への積極的参画と奉仕活動 ② 社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動 ③ 病院・刑務所・福祉施設等への慰問 ④ 音楽系クラブによる演奏奉仕

3. 幼稚園

設置予定のKIDSセンターにおける本園の役割と働きを通じ、地域の子育て支援プログラムを大学との連携により推し進め充実させる。

また、地域の小学校や保育園と交流したり、地域の高齢者にハンドベル演奏を聴いていただくなど、園児が地域社会との共生を実感し体験できるような活動を展開する。その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 大学との連携による子育て支援プログラムの推進
② 園児と地域の小学校・保育園との交流活動の実施
③ 園児と地域の高齢者との触れ合い交流活動の実施

4. 法人（学院全体）

金城学院大学キャンパスは、その中央を南北に市道が走っている。この市道のうち、キャンパスに面する市道北側部分については、拡幅を含め歩道の整備を終えた。については、まだ実現していない最寄駅からの通学路に当る市道南側について、地域関係組織・機関との話し合いを続け、安全を第一に考えた歩道拡幅のための整備を進める。

その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 歩道整備による地域住民及び学生の安全の確保

V KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進

より良い教育を推進するためには、教育環境が重要な役割を果たす。本学院の多くの建物は、建築から50年近く経過しており、老朽化が目立つとともに、バリアフリー等も含め使い勝手の悪い状況も散見されるようになった。そこで、施設の整備は勿論のこと、キャンパス全体の見直しを行い、安全で使い易く、自然等に配慮した環境を整備する。本学院では、金城学院キャンパスマスタープラン(KMP21)を作成し、2012年度から整備を開始しているが、この計画に基づき継続して整備を推進する。

その具体的な施策は以下の通りである。

施 策
① 大学 大学では、3期(1期…N1、N2棟及び礼拝堂の建築及び周辺整備、2期…W3棟建築及び周辺整備、3期…E1、E2棟建築及び周辺整備)に分けて整備計画を進めることにしている。第1期は予定通り2014年度に終了した。 第2期(W3棟建築及び周辺整備)は、2014年度から実施しているが、これを計画

通り 2015 年度中に完了させる。また、第 3 期(E1、E2 棟建築及び周辺整備)については、2020 年度からの実施を計画しているが、それに向けた検討を行う。

② 高等学校

高等学校では、2013 年度に世光館を竣工した。2014 年度から地塩館の建て替えを実施しているが、これを計画通り 2015 年度中に竣工させる。また、地塩館の竣工とともに栄光館を改修する。

③ 中学校

中学校では、高校の改築にともない設置した仮設校舎を引き続き利用し、2016 年度から恵愛館、友愛館、信愛館の改築を実施し、2017 年度中に竣工させる。

VI 金城学院創立 130 周年・大学設立 70 周年記念事業の立案と実施

金城学院は、2019 年に創立 130 周年、大学設立 70 周年を迎える。この機会を建学の精神に基づく学院の使命を改めて確認する機会としてとらえ、本学院にふさわしい 130 周年記念事業を展開する。

施 策

- ① 130 周年記念事業についての立案と実行
- ② 130 周年記念寄付金の募集
- ③ みどり野会(金城学院同窓会)との連携強化
- ④ 金城学院資料室の整備